

(別紙様式4)

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

令和元年7月31日※1
(前回公表年月日:平成30年7月31日)

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																					
専門学校トヨタ東京自動車大学校		昭和51年6月1日		上田 博之		〒193-0944 東京都八王子市館町2193番地 (電話) 042-663-3211																					
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																					
学校法人トヨタ東京整備学園		昭和63年10月20日		横山 裕行		〒193-0944 東京都八王子市館町2193番地 (電話) 042-663-3211																					
分野	認定課程名		認定学科名			専門士		高度専門士																			
工業	工業専門課程		自動車整備科			平成7年文部科学省 告示第7号																					
学科の目的																											
サービススタッフとしての即戦力と人間性を身に付け、お客様とのコミュニケーション能力を養うなど、実践的かつ専門的な職業教育を行うことを目的とする																											
認定年月日																											
平成27年2月17日																											
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義			演習	実習	実験	実技																		
2年	昼間	2448時間	738.9時間			時間	1709.1時間	時間	時間																		
単位時間																											
生徒総定員		生徒実員		留学生数(生徒実員の内数)		専任教員数		兼任教員数		総教員数																	
560人		445人		50人		36人		0人		36人																	
学期制度		■1学期:4月1日～7月31日 ■2学期:8月1日～12月31日 ■3学期:1月1日～3月31日				成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 各科目について学科・実技試験を実施 合格点は60点以上																			
長期休み		■夏 季:7月21日～8月31日 ■冬 季:12月25日～1月7日 ■春 季:3月25日～4月5日				卒業・進級条件		授業科目は、全科目必修とし、欠席、遅刻、早退した場合は、原則当該時間数の補講を実施。 全ての試験に合格し、必要な課程を修了した者を進級、卒業の認定をする。																			
学修支援等		■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任、課長による面談 保護者と連絡を密に取り連携				課外活動		■課外活動の種類 地域清掃活動への参加 クラスごとに地域清掃の実施 めじろ台祭り神輿担ぎ モータースポーツ活動への積極的参加 ■サークル活動: 有																			
就職等の状況※2		■主な就職先、業界等(平成30年度卒業生) トヨタ自動車、トヨタ販売店各社、日野自動車、ダイハツ販売店各社、日野自動車各社、トヨタ自動車関連会社等 ■就職指導内容 トヨタ関連企業会社説明会、社会人マナー講習、書類等添削、個人面談、面接指導、職業適正検査、SPI ■卒業者数 : 192 人 ■就職希望者数 : 92 人 ■就職者数 : 92 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 47.9 % ■その他 進学 1級専攻科24人 スマートモビリティ科22人 ボデークラフト科46人 トヨタセールスエンジニア科1人 (平成 30 年度卒業生に関する 令和元年5月1日 時点の情報)				主な学修成果(資格・検定等)※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業生に関する令和1年5月1日時点の情報) <table><tr><td>資格・検定名</td><td>種別</td><td>受験者数</td><td>合格者数</td></tr><tr><td>2級ガソリン自動車整備士</td><td>②</td><td>192 人</td><td>192 人</td></tr><tr><td>2級ジーゼル自動車整備士</td><td>②</td><td>192 人</td><td>192 人</td></tr><tr><td>トヨタサービス技術検定3級</td><td>③</td><td>192 人</td><td>192 人</td></tr></table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	2級ガソリン自動車整備士	②	192 人	192 人	2級ジーゼル自動車整備士	②	192 人	192 人	トヨタサービス技術検定3級	③	192 人	192 人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																								
2級ガソリン自動車整備士	②	192 人	192 人																								
2級ジーゼル自動車整備士	②	192 人	192 人																								
トヨタサービス技術検定3級	③	192 人	192 人																								
中途退学の現状		■中途退学者 21 名 平成30年4月1日時点において、在学者426名(平成30年4月1日入学者を含む) 平成31年3月31日時点において、在学者405名(平成31年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 経済的理由、進路変更 ■中退防止・中退者支援のための取組 担任による面談、家庭への連絡、相談室の設置、教員の心理学研修				■中退率 4.9 %																					
経済的支援制度		■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 トヨタ東自大奨学金(女子奨学生、3級自動車整備士奨学生) ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																									
第三者による学校評価		■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																									
当該学科のホームページURL		https://www.toyota-iaec.ac.jp																									

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
国土交通省の定める一種養成施設の教育内容・教育時間に関する規定を遵守すると共に、自動車業界全体の動向をしっかりと見据え、企業・業界団体等と連携し、職業に必要な最新の知識・技術をまた、トヨタ自動車の社内検定制度も含んだ教育課程の編成を行い実践的かつ専門的な職業教育を実施する。
また、卒業生の就職先企業への訪問を実施すると共に就職先企業へアンケートを実施し、職場からの意見等を教育課程への反映させるための検討を教育課程編成委員会を実施する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会規定により内外から教育課程編成委員を選出して、教育課程編成委員会を開催し、最新の自動車業界の動向を基に教育課程案を作成して、教職員会で検討を行い、校長はこれらを尊重した上で判断し、学校教育に展開するものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和元年6月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
野見山 芳幸	トヨタ自動車株式会社	令和元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	③
有山 仁	トヨタモビリティ東京株式会社	令和元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	③
安藤 満	トヨタモビリティ東京株式会社	令和元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	③
橋本 工	トヨタ西東京カローラ株式会社	令和元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	③
在田 泰彦	トヨタモビリティ東京株式会社	令和元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	③
金子 俊明	東京都自動車振興会 教育部講習課	令和元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	①
上田 博之	専門学校トヨタ東京自動車大学校	令和元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	
高柳 尚之	専門学校トヨタ東京自動車大学校	令和元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	
若林 良弘	専門学校トヨタ東京自動車大学校	令和元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	
太田 靖也	専門学校トヨタ東京自動車大学校	令和元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	
末次 真一郎	専門学校トヨタ東京自動車大学校	令和元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	
戸賀沢 愛彦	専門学校トヨタ東京自動車大学校	令和元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	
岡谷 広徳	専門学校トヨタ東京自動車大学校	令和元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	
望月 邦和	専門学校トヨタ東京自動車大学校	令和元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	
藤川 龍彦	専門学校トヨタ東京自動車大学校	令和元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(9月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 平成30年9月19日 13:30～15:30

第2回 平成31年3月27日 13:30～15:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

新機構等のカリキュラムへの反映に関しては、委員の方より評価を頂いている。今年度から新たに取り組んでいる校内業務検定では、新機構の商品知識、構造及びコミュニケーション向上教育等が挙げられる。また、新しいものへの取り組み以上に基本、基礎的な知識、技術も怠りなくとの指摘も頂いている。安全作業の徹底に関しては、カリキュラムの中にしっかりと取り組んでいきたい。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

卒業生の就職先は自動車業界全般であり、自動車技術の進歩は目覚しく、それに対応すべく企業と密接な連携を取り、実践の場で必要となる知識・技術を修得できる実習プログラムを作成する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

科目：ジーゼルⅢ、走行Ⅲに於いて、大型車用エンジンの構造等また、大型車用デファレンシャルの構造等を内容に関しては、企業と検討しカリキュラムを編成し学科・実習授業を実施、ジーゼルⅢ、走行Ⅲ科目内にて試験を実施し、企業の方に評価を頂き、学校が最終的な評価を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
ジーゼルⅢ	新機構のコモンレールジーゼルエンジン(大型車用)を教材として借用、学科・実習授業にて構造等の研究として活用	日野自動車株式会社
走行Ⅲ	大型車駆動系授業のインターアクスルデファレンシャル構造研究において教材として借用、現物での実習授業にて構造等の研究として活用	日野自動車株式会社

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教職員の能力開発及び資質の向上等を組織的に取り組み事を教職員研修規定で定め、教員は、業務経験や能力、担当科目等に応じ、企業と連携して専門分野における実務に関する知識、技術及び技能等並びに、安全衛生及び指導力等の修得・向上を行い、部単位研修においては、「人材育成体系」に従って展開する。

また、当校は、自動車に関する学科のみであるので、教員に対する研修等に関しては、教育部全体のバランスを考慮して計画的に実施。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「トヨタ技術研修」(連携企業等:トヨタ自動車 サービス技術部)

期間:8月27～29日(3日間) 対象:ハイブリッド車について教える科目担当(1級自動車科2名、自動車整備科1名)

内容:自動車技術の知識・技術の修得(ハイブリッド車の安全対策と故障、故障探求)

研修名「販売店研修Ⅱ」(連携企業等:トヨタ販売店)

期間:7月18日～22日(5日間) 対象:入校後5年～10年程度の職員(1級自動車科1名、自動車整備科3名)

内容:販売店業務の確認、整備作業体験

研修名「海外研修Ⅲ」(連携企業等:Vertex Sports,Inc)

期間:7月15日～30日(15日間) 対象:正教員2級以上(自動車整備科1名)

内容:海外にてモータースポーツの見聞を広める

研修名「新型スーブラ商品勉強会」(連携企業等:神奈川トヨタ自動車株式会社)

期間:6月12日(1日間) 対象:正教員以上(自動車整備科2名、1級自動車科1名、スマートモビリティ科1名)

内容:新型車スーブラの商品知識の習得(新機構の機能説明を含む)

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「教職員夏季研修会」(連携企業等:全国自動車大学校・整備専門学校協会)

期間:8月1日～3日(4日間) 対象:入校2～3年次に全員受講(自動車整備科2名)

内容:コーチング、コミュニケーションの基礎、問題解決手法を習得

研修名「コミュニケーション研修(上級、応用)」(連携企業等:公益法人東京都私学財団)

期間:10月4日、9日(2日間) 対象:正教員(自動車整備科1名)

内容:コミュニケーション能力向上、クレーム対応

研修名「コーチング研修」(連携企業等:公益法人東京都私学財団)

期間:8月6、7日(2日間) 対象:上級教員(自動車整備科1名)

内容:人が持っている能力を最大限に発揮させるための手法

研修名「企業派遣研修」(連携企業等:公益法人東京都私学財団)

期間:7月24日～26日(3日間) 対象:上級教員(1級自動車科1名、スマートモビリティ科1名)

内容:民間企業の経営感覚・組織の役割等を体験し、組織の活性化を図る

(3) 研修等の計画 ① 専攻分野における実務に関する研修等 研修名「 トヨタ技術研修 」(連携企業等:トヨタ自動車 サービス技術部) 期間:6月4～6日(3日間) 対象:多重通信について教える科目担当(1級自動車科2名、自動車整備科1名) 内容:自動車技術の知識・技術の修得(多重通信) 研修名「 トヨタ技術研修 」(連携企業等:トヨタ自動車 サービス技術部) 期間:7月8～10日(3日間) 対象:エンジン分野について教える科目担当(1級自動車科2名、自動車整備科1名) 内容:自動車技術の知識・技術の修得(エンジン分野) 研修名「 トヨタ技術研修 」(連携企業等:トヨタ自動車 サービス技術部) 期間:7月30～8月1日(3日間) 対象:エレキ分野について教える科目担当(1級自動車科2名、自動車整備科1名) 内容:自動車技術の知識・技術の修得(エレキ分野) 研修名「 販売店研修Ⅱ 」(連携企業等:トヨタ販売店) 期間:7月24日～8月2日(7日間) 対象:入校後5年～10年程度の職員(1級自動車科1名、自動車整備科3名) 内容:販売店業務の確認、整備作業体験 研修名「 海外研修Ⅲ 」(連携企業等:Vertex Sports,Inc) 期間:7月14日～29日(15日間) 対象:正教員2級以上(自動車整備科1名) 内容:海外にてモータースポーツの見聞を広める 研修名「 トヨタ技術研修 」(連携企業等:トヨタ自動車 サービス技術部) 期間:9月頃(3日間) 対象:内容によって検討 内容:自動車技術の知識・技術の修得 研修名「 販売店研修Ⅱ 」(連携企業等:トヨタ販売店) 期間:7月頃(約1週間) 対象:入校後5年～10年程度の職員 内容:販売店業務の確認、整備作業体験 研修名「 海外研修Ⅲ 」(連携企業等:Vertex Sports,Inc) 期間:7月14日～29日(15日間) 対象:正教員2級以上 内容:海外にてモータースポーツの見聞を広める 研修名「 S-GTメカニック体験 」(連携企業等:株式会社セルモ) 期間:8月(3日間) 対象:入校4年位までの若手教員 内容:レースメカニック体験を通じた、現場体験 ② 指導力の修得・向上のための研修等 研修名「 教職員夏季研修会 」(連携企業等:全国自動車大学校・整備専門学校協会) 期間:7月30日～8月2日(4日間) 対象:入校2～3年次に全員受講 内容:コーチング、コミュニケーションの基礎、問題解決手法を習得 研修名「 コミュニケーション研修(初級) 」(連携企業等:公益法人東京都私学財団) 期間:5月14日(1日間) 対象:入校1年目を目安 内容:ビジネスマナーの基本を習得 研修名「 コミュニケーション研修(上級、応用) 」(連携企業等:公益法人東京都私学財団) 期間:11月9日(1日間) 対象:正教員 内容:コミュニケーション能力向上、クレーム対応 研修名「 コーチング研修 」(連携企業等:公益法人東京都私学財団) 期間:8月8、9日(2日間) 対象:上級教員 内容:人が持っている能力を最大限に発揮させるための手法 研修名「 企業派遣研修 」(連携企業等:公益法人東京都私学財団) 期間:7月24日～8月26日(3日間) 対象:上級教員 内容:民間企業の経営感覚・組織の役割等を体験し、組織の活性化を図る 研修名「 留学生に対する生活指導等講習会 」(連携企業等:専修学校教育振興会) 期間:6月25日(1日) 対象:上級教員 内容:専門学校における留学生の受け入れに関する知識の修得
--

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者として、自動車業界関係者、地域住民、卒業生を含めた学校関係者評価委員会を組織して、それぞれの立場から教育活動、学校運営等の状況について評価を行い、意見を交わし、その結果を教職員会で検討を行い、次年度以降の改善・改革活動につなげる。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目的・育成人材像
(2)学校運営	運営方針・事業計画・運営組織・人事・給与制度・意思決定システム
(3)教育活動	教育方法・評価等・成績評価・単位認定等・資格・免許の指導体制・教員・教員組織
(4)学修成果	就職率・資格・免許の取得率・卒業生の社会的評価
(5)学生支援	就職等進路・中途退学への対応・学生相談・保護者への対応・卒業生
(6)教育環境	施設設備等・学外実習等・防災・安全管理
(7)学生の受入れ募集	学生募集活動・入学選考・学納金
(8)財務	財務基盤・予算・収支計画・監査・財務情報の公開
(9)法令等の遵守	関係法令・設置基準等の遵守・個人情報保護・学校評価・教育情報の公開
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献・ボランティア活動
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

卒業生の早期退職の防止に関しては、学校だけでなく就職先の企業とも連携しながら取り組みたい。卒業生とのコミュニケーションを密にするためにも同窓会支部会設立を計画している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和元年6月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
松野 来	トヨタ自動車株式会社	令和元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	企業委員
中原 隆雄	トヨタモビリティ東京株式会社	令和元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	企業委員・卒業生
林田 英樹	ネッツトヨタ多摩株式会社	令和元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	企業委員・卒業生
雑賀 政之	トヨタモビリティ東京株式会社	令和元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	企業委員・卒業生
薄井 紀彦	横浜トヨペット株式会社	令和元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	企業委員・卒業生
愛甲 彰人	館町 町会長	令和元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	地域
安藤 俊明	トヨタ西東京カローラ株式会社	令和元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	保護者・卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他() ()

URL:<https://www.toyota-jaec.ac.jp/>

公表時期:30年7月31日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

自動車の技術進歩は目覚しくそれに対応するべく最新の技術、情報等の意見を収集するためには、就職先企業との連携は必要不可欠なものであり、情報提供をすることにより、当校の学校運営、教育への取り組み等を理解してもらうことにより、意見を頂き改善を行う。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の概要、校長名、教育スローガン、所在地
(2)各学科等の教育	各学科の目標、取得可能資格、定員、カリキュラム
(3)教職員	職員組織、全職員数、教員の専門性
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職支援、就職活動、就職実績
(5)様々な教育活動・教育環境	キャンパスライフ、クラブ活動、年間行事予定
(6)学生の生活支援	学生寮、提携マンション
(7)学生納付金・修学支援	学費、奨学金、
(8)学校の財務	資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表
(9)学校評価	自己評価報告書、学校関係者評価報告
(10)国際連携の状況	学校HPの他言語(英語、中国語、韓国語、ミャンマー語)
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL:<https://www.toyota-jaec.ac.jp/>

授業科目等の概要

(工業専門課程自動車整備科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			基礎	工具の名称及び取扱い方法、自動車各装置の概要を知る。	1 ①	21.6		△		○	○		○		
○			エンジンⅠ	エンジンの仕組みを理解し、各部名称を覚える。	1 ①	75.6		△		○	○		○		
○			燃料・手仕上げ	安全作業・正しい姿勢を修得する。正確な測定技術を習得する。	1 ①	75.6		△		○	○		○		
○			走行Ⅰ	サスペンションの各構成部品の役目を理解する。ステアリングの基本構造を理解する。	1 ①	75.6		△		○	○		○		
○			制動Ⅰ	油圧式ブレーキの構造を理解する。ブレーキシュー交換作業を体得する。	1 ①	75.6		△		○	○		○		
○			エンジンⅡ	始動、点火、充電装置の基本作動を習得する。スイッチを含めた基本回路での電位、電位差の理解。	1 ②	93.6		△		○	○		○		
○			エンジン整備	ガソリンエンジンの排出ガスの特徴とその浄化装置の目的、作動を理解する。	1 ②	93.6		△		○	○		○		
○			駆動Ⅰ	クラッチの断続のしくみを理解する。ギヤのかみ合いによる減速を理解する。デフの作動の原理を理解する。	1 ②	93.6		△		○	○		○		
○			制動Ⅱ	制動倍力装置の作動を理解する。灯火装置の作動を理解する。	1 ②	93.6		△		○	○		○		
○			エンジンⅢ	電子制御式燃料噴射装置の構成部品とその働きを理解する。オルタネータの発電と整流の仕組みを理解する。充電装置の車上点検を習得する。	1 ③	46.8		△		○	○		○		
○			ジーゼルⅠ	ガソリンエンジンとの相違点、各燃焼室の特徴を理解する。エキゾーストブレーキの作動、慣性過給装置の原理を理解する。	1 ③	46.8		△		○	○		○		
○			走行Ⅱ	ホイールアライメント各要素の働きを理解する。CCKGの正しい取扱い方法を身に付ける。	1 ③	46.8		△		○	○		○		
○			定期点検Ⅰ	個人作業による1年定期点検作業要領の体得。ハイブリッド車の概要。	1 ③	46.8		△		○	○		○		
○			総合	就職試験に必要な一般常識を身に付ける	1 ③	21.6		○			○		○		
○			エンジンⅣ	燃料噴射量制御の考え方を理解する。オシロ画面による波形観測法を習得する。	2 ①	79.2		△		○	○		○		
○			ジーゼルⅡ	列型インジェクションポンプの燃料圧送作用（有効ストローク等）、噴射量の増減方法について理解する。	2 ①	79.2		△		○	○		○		
○			駆動Ⅱ	トルコンのトルクアップの仕組みを理解する。 プラネタリギヤの基本原理を理解する。 A／Tの動力伝達を理解する。	2 ①	79.2		△		○	○		○		
○			定期点検Ⅱ	定期点検作業における良否判定が的確にできるようにする。車検ラインを使用した完成検査要領を体得する。	2 ①	79.2		△		○	○		○		

